

学校新聞特派員

〜姉妹都市北茨城市〜

8月6日から7日までの2日間、高社中学校3年生の上原直斗さん、宮本雄太さん、曾我部みらいさんの3人が「学校新聞特派員」として、姉妹都市の茨城県北茨城市を訪問しました。3人が実際に見て、感じた姉妹都市の様子や、北茨城市の中学生との交流などをまとめたレポートの中から、一部をご紹介します。

野口雨情さんと中山晋平さんの関わり

北茨城市出身の作詞家野口雨情さんと中山晋平さんと



▲野口雨情生家

の関わりについて調べてきました。二人の出会いには、1919（大正8）年、船頭小唄を野口雨情さんが作詞し、中山晋平さんに作曲を依頼したことが始まりとなり、後に、全国各地で開かれた野口雨情さんの講演には、必ず中山晋平さんも同行するというくらい交流が深く、親しい仲になりました。

野口雨情さんのお孫さんは、野口雨情さんのさまざまな遺品を今でも大切に保管しており、地震で、その資料が失われまいように命がけで守ったと話してくれました。

（上原直斗）

東日本大震災後の北茨城市の被害状況について

東日本大震災の被害状況と復興状況取材しました。ニュースでは、あまり知られていませんが、地震と津波の被害が大きく、あの日から5カ月たった今でも、復興されていない所がたくさんあり



▲津波で被害を受けた建物

ます。北茨城市では、行方不明者がまだ1人います。北茨城市に滞在している間にも大きな地震が数回あり今でも、毎日のように地震が続いていることを実感しました。東日本大震災で亡くなられた方のほとんどが津波による被害であることを知り、津波の恐ろしさを、この目で知ることができました。

（曾我部みらい）

学校新聞特派員を終えて

2日間の学校新聞特派員を終えて感じたことは、一番は震災のことでした。震災の影響で、美術館が開くことができなかつたり、観光で有名な文化財が津波で流されてしまつたりと、たくさん被害がありました。

心に残つたのが関本中学校との交流です。校長室で自己紹介をし、調理室でそうめんとお漬物を頂戴しました。関本カボチャは普通のカボチャよりも甘みが多くとてもおいしかったです。僕たちは関本中学校の皆さんとガラス細工体験しました。



▲関本中学校生徒会との交流

工房はとても暑く、その場に汗がでてきました。でも、その中で職人さんたちは毎日作業しているわけですから、とてもすごいと思います。体験も終わり、関本中学校の皆さんとお別れです。すっかり関本中学校の皆さんと仲良くなり別れの時はとても寂しかったです。最後まで関本中学校のみんなに手を振りました。

（宮本雄太）

被爆地派遣〜広島市〜

8月4日から6日までの3日間、南宮中学校3年生の高野誠也さん、池田萌乃さん、池田亮太さん、岩本星蘭さんの4人が「平和使節」として、被爆地の広島県広島市を訪問しました。4人が戦争のむなしさや悲惨さを知るとともに、広島市の中学生との交流などをまとめたレポートの中から、一部をご紹介します。

広島での3日間

翠町中学校との交流ですが、学校の様子や平和活動の様子など、お互いに知らないことや驚くことが多く、よい学び合いになったと思います。

次に平和資料館を見学しました。展示物や解説を見れば見るほど、言葉が出なくなり、なんだか悲しい気持ちになってきました。次に原爆ドームを見ました。柵があつて中に入ることはできません



▲広島平和記念資料館

平和交流会

翠町中学校に着くと、9人

（高野誠也）

さ、これから行われる文化祭などを通して、南宮中学校の全校生徒に伝えていきたいと思ひます。

広島平和記念資料館を見学して

広島平和記念資料館を見学

（池田萌乃）

この交流会で、66年前のあの日の惨劇を二度と起こしてはいけなかつと思ひ、二度と戦争はしてはいけなかつ「核兵器は人類に対して使つてはいけなかつ」ということをあらためて感じました。



▲翠町中学校との交流会

ライドの発表をしました。

学校紹介、校内慰霊祭についてなど、平和活動についてなどの発表がありました。翠町中は私たちと違うところが多かつたです。最大の違いは、「平和係」というのがあり、校内慰霊祭があること、どの行事でも平和を題材にしたものが行われている、ということです。一方、私たちも、松代大本営についてスライドで発表しました。

この交流会で、66年前のあの日の惨劇を二度と起こしてはいけなかつと思ひ、二度と戦争はしてはいけなかつ「核兵器は人類に対して使つてはいけなかつ」ということをあらためて感じました。

（池田亮太）

『平和』の大切さ

平和記念式典では、原爆死没者名簿奉納、式辞、献花、黙とうおよび平和の鐘、平和宣言、放鳩、平和への誓いなどが行われました。



▲原爆ドーム

黙とう・平和の鐘では、原爆の落とされた8時15分から公園にいた人々みんなで1分間の黙とうをしました。

式典の中で、私が一番印象に残っているのは「平和への誓い」です。こども代表の小学生2人が、「私たちは、今を生きている人間として、夢と希望があふれる未来をつくるために、行動していくことを誓います。」と、宣言しました。広島市の小学生は真剣に平和について考えていました。

私は、この3日間で戦争の悲惨さ、平和の大切さについて今まで以上に深く学ぶことができました。広島の方々の思いがしっかりとみんなに届くよう、日ごろの生活の中にも平和意識の向上を取り入れていきたいと思ひます。

（岩本星蘭）